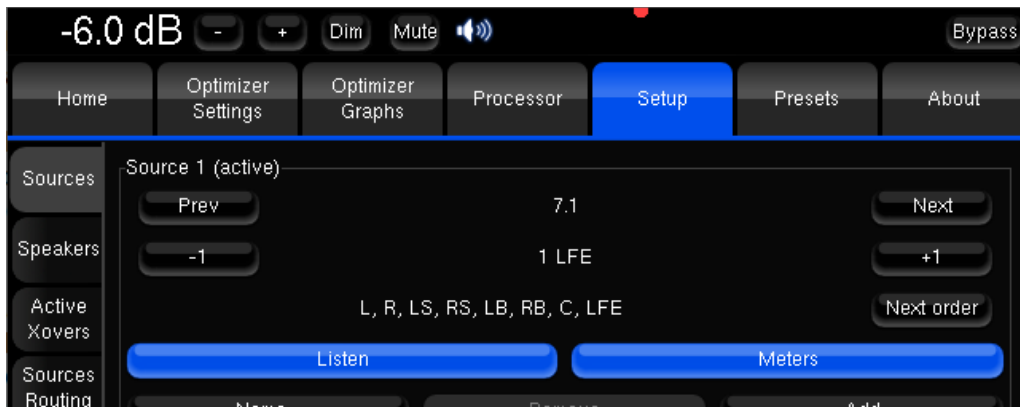


7.1スピーカーシステムを5.1ミックスで運用する

7.1chのスピーカーシステムを5.1chで運用したい場合、多くの場合は サラウンド チャンネルを LS+ LB, RS+RB と、まとめて出力します。この場合、Trinnov MC では以下の様に設定を行います。

1. ミキサーから送られてくるのは 5.1chの信号ですが、既に「スピーカー入力」は「プロセッサ出力」から配線されていますので、“Sources”を“スピーカーの本数(=使用しているプロセッサ出力数)”と考え、7.1 と設定します。



2. 次に“Speakers”ですが、実際には 7.1 本ありますので、その通りに入力します。



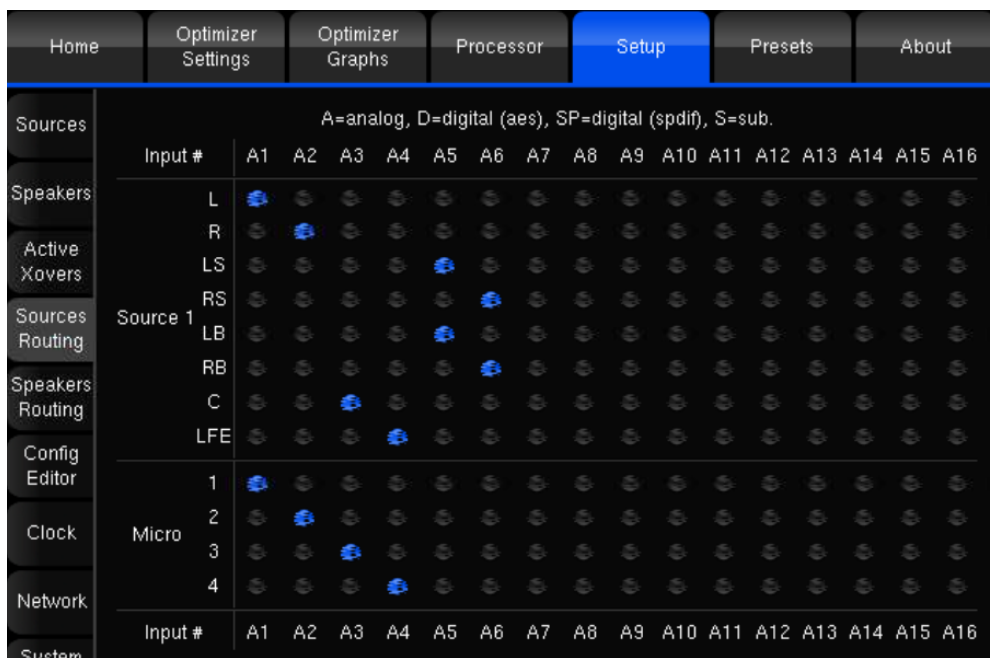
3. “Source Routing” は、少し特殊な方法で設定します。

まず、通常(7.1ch)環境では下図の様に、L,R,C,LFe,LS,RS,LB,RB の順序でミキサーから接続されているとします。

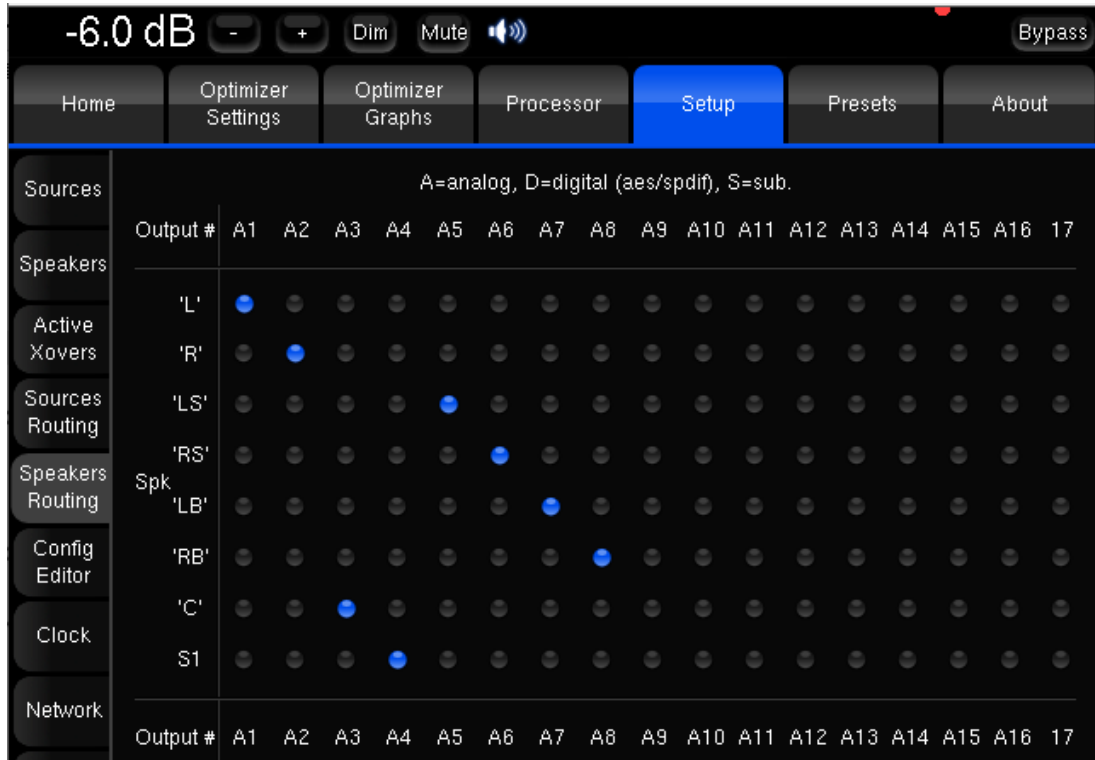


5.1chの場合、LsとLB、RsとRB は 同じものを送ることになりますので、次の図の様に設定を変更します。

物理入力を複数のプロセッサー入力にルーティングすると、自動的に適切なアッテネーションがかかります。



4. “Speaker Routing” は、これまで通りに送ります。



これでA5とA7出力にミキサーからのLsが、A6とA8出力にミキサーからのRsが送られることとなります。

NOTE: 既に 7.1chとしてClibrationが行われているのなら、5.1chとして再度Clibrationを行う必要はありません。

追加設定:

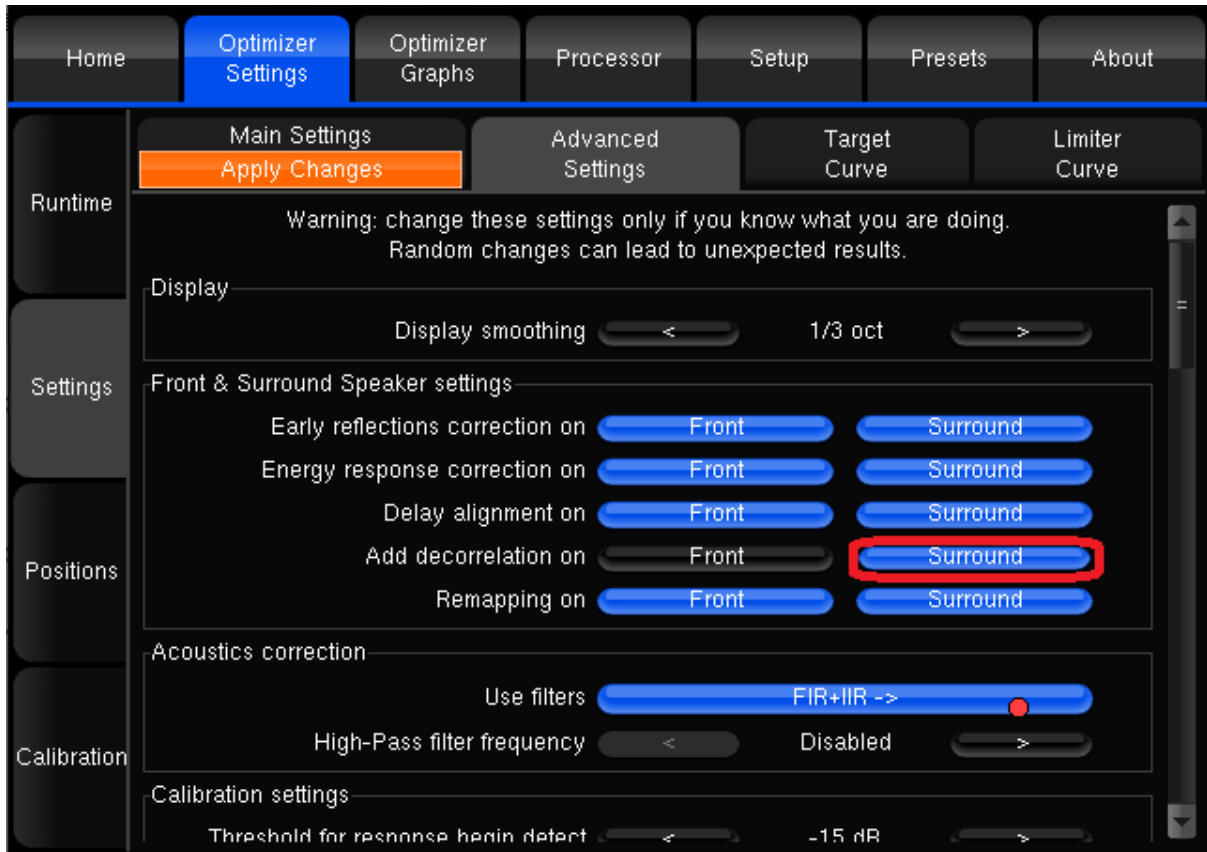
7.1chで **Calibration** を行ったシステムを改めて 5.1chシステムとしてCalibrationした場合、サラウンドスピーカーは “点” として捉えることができません(サラウンドチャンネルのLsに信号を送るとLSとLBから同じ音が出力されるため)。

Trinnovプロセッサーは、通常スピーカーを “点” として捉えます。プロセッサーは “点” の位置を特定するまで Calibration信号を出し続けます。そのため通常の方法では Calibration することができません。

そこで、プロセッサーにスピーカーを “点” ではなく “帯” として捉えるように設定をする必要があります。

この設定は、**Optimizer Settings > Settings > Advanced Settings** にあります。

Add decorrelation on を **Surround** にのみ与えてください。これでプロセッサーはスピーカーを “点” ではなく “帯” として捉えるようになります。



設定を変更すると、Main Settings の下に オレンジ色で “Apply Changes” と表示されます。

そのボタンをクリックして再計算させてください。

再計算したものは、新たに 5.1 の設定として **Preset** に保存してください。

以上で 7.1ch セッションを 5.1ch セッションとして変換することができました。